

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

- ① 国語 102人
- ② 算数 101人

5 留意事項

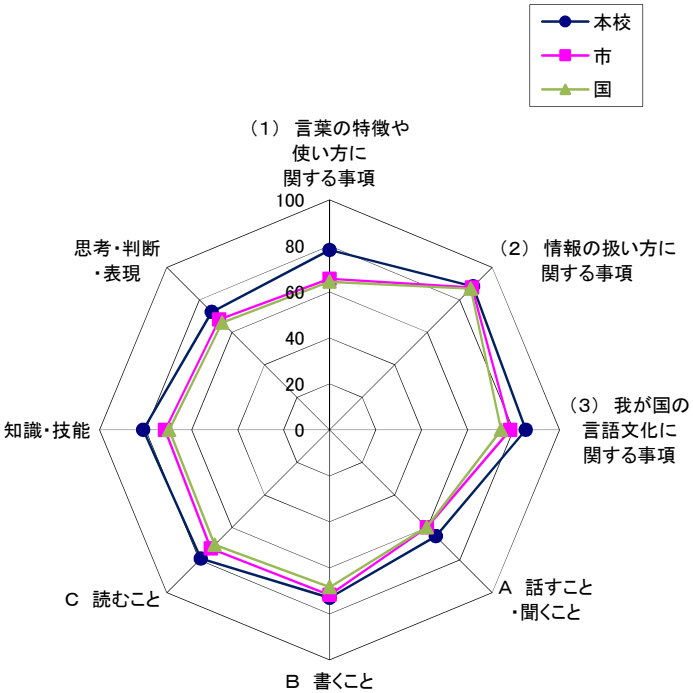
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	78.2	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方に関する事項	88.2	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	85.3	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	65.4	59.9	59.8
	B 書くこと	73.0	71.8	68.4
	C 読むこと	79.1	72.9	70.7
観点	知識・技能	81.0	71.5	69.8
	思考・判断・表現	72.4	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

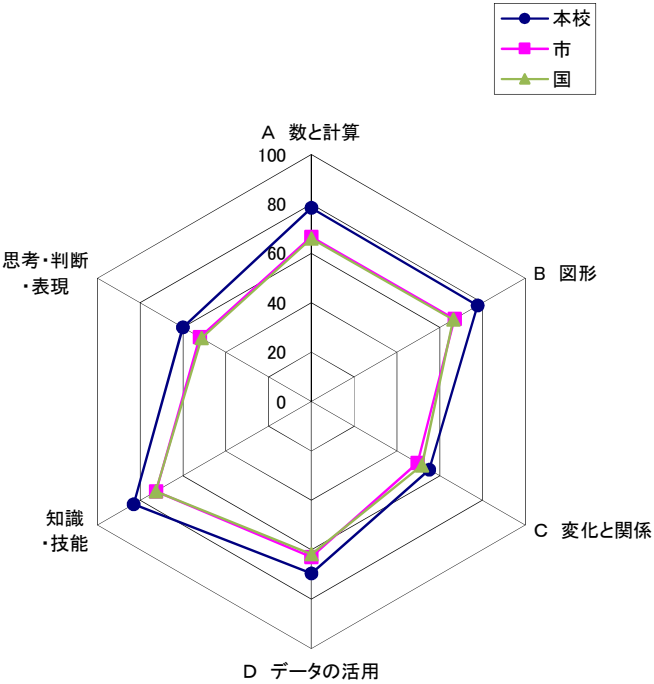
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は全国の平均を13.8ポイント上回っている。 ○相手に合わせて話し方を変えた理由を問う問題において市の平均正答率を12.3ポイント上回っている。また、文の中における主語と述語の関係を捉えることができています。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・語句と語句の関係について、文法の学習やワークシートやAIドリルなどによる練習を通して理解を深めていく。 ・相手に伝わりやすいように文を短く区切ったり、分かりやすい表現に直したりするなど、相手を意識した文章構成を考えられるように指導していく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は全国の平均を1.3ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解できている。	・今後も、普段の授業の中で、情報を整理したり、図や表に表したりする場を設定していく。 ・友達とともにJam Board等のICTを用いてKJ法等を活用し、助言し合いながら情報の整理をする機会を設ける。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は全国の平均を10.7ポイント上回っている。 ○日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関わっていると考えられる。	・幅広い種類の本に親しめるように働きかけ、言語感覚を豊かにしていく。 ・今後も図書館司書と連携し、多くの本に触れる機会を設け、児童が自ら本を読みたくするような環境を作る。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は全国の平均を5.6ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて情報を相互に関連づけ、伝え合う内容を検討することができている。 ●自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかを見る問題において正答率が55.9%であり、課題が見られる。	・国語の授業だけでなく、他教科や学級活動等の話し合いの中で、話し方、聞き方の指導を引き続き行っていく。話し合い活動を通して、お互いの意見を聞き入れ合い、まとめていく経験を重ねられるよう、意識的にそのような場面を設定していく。 ・自分の意見を伝える活動において、意識的に表現の工夫を記入できるようなワークシートを準備する。
B 書くこと	平均正答率は全国の平均を4.6ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にすることができるかを見る問題においては、市の平均を8ポイント上回っている。普段の授業の中でマインドマップを取り入れて自分の考えを整理する活動が生きていると考えられる。 ●目的や意図に応じて事実と感想を区別して書く問題については、正答率が56.9%であり、全国の正答率を0.3ポイント下回っている。	・今後も作文を書く手段として、書くことへの抵抗感が低くなり、推こもしやすくなる1人1台端末を活用する。 ・普段から1人1台端末を使って文章を書き、友達の文章と見比べてたり助言し合いながら推敲したりする活動を取り入れる。 ・使う言葉や文字数を制限して文章を書く機会を設ける。
C 読むこと	平均正答率は全国の平均を8.4ポイント上回っている。 ○登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができていると考えられる。特に、人物像を具体的に想像する問題においては、全国の正答率を10.8ポイント上回っている。	・普段の授業の中で物語や説明文を読む際に内容の読み取りを丁寧に行い、文章読解力を高める。また、物語や説明文とほかの資料を関連付けて読み取る力を高めるために、プレゼンテーションなどを行う際に、新聞やインターネットからの情報を内容と結び付けて表現するよう、指導する。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	78.4	66.7	66.0
	B 図形	77.7	66.9	66.3
	C 測定			
	D 変化と関係	55.1	49.6	51.7
	E データの活用	69.6	62.9	61.8
観点	知識・技能	83.1	72.6	72.8
	思考・判断・表現	60.1	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○この領域の平均正答率は、全国より10ポイント以上高い。 ○特に、 $350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く問題では、児童の正答率は76.2%で全国より20ポイント以上高かった。	・今後もスキルやAIドリルを活用し、基礎基本の定着を図っていく。
B 図形	○この領域の平均正答率は全国より10ポイント以上高い。 ○直方体の見取り図について理解し、かくことができるかどうかを判断する問題では、児童の正答率が93.1%で、全国や県より5ポイント以上高かった。 ●直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く問題では、県より8ポイント高いが、児童の正答率は44.6%と、全体の半数に満たなかった。	・誤答の様子から、設問内に複数の図形が出てきていることで、何を求める問題なのかを理解できていない様子が見られた。この領域では、様々な公式が出てくることもあるので、何を求める問題があるのかを把握し、問題に合う式を正しく選べるようにしていく。
C 変化と関係	○この領域の平均正答率は全国より高いが、他の領域と比べると正答率は低い状況にある。 ●家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く問題が、全国や県の平均より3ポイント高いが、児童の正答率は31.7%と低い。	・どちらが速いかを求めることはできているので、自分で問題を解くだけでなく、論理的に相手に説明する力を身に付けさせていく必要がある。そこで、ペアやグループでの説明活動を増やして、友達との意見のやり取りによる学び合う機会の充実を図り、説明する力を高めていく。
D データの活用	○この領域の平均正答率は全国より5ポイント以上高い。 ●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題では、県の平均より10ポイント以上高いが、児童の正答率は54.5%で、半数程度にとどまっている。また、無回答率が他の設問よりも多かった。	・設問は二つのことについて求められていたが、片方しか回答しなかった児童が多かった。設問から、何を求める問題なのかを正確に把握し、必要なデータを読み取る活動を継続して行う。また、この領域に限らず、自分の言葉で説明したり書いたりする活動を取り入れていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○算数、英語の学習についての質問では、「その教科の学習が好きか」に対しての肯定回答割合は県平均を上回っていた。「算数・英語の授業内容がよく分かるか」についても、算数で86.9%、英語で92.6%の児童が肯定的に回答していた。「授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」に対する肯定回答割合も県平均を上回っていた。これらのことから児童は学習に興味関心があり、今後に向けての意欲も高いことが分かる。これからも深い学びのある授業展開を工夫していく。

○授業の様子についての質問では、「授業や学校生活では、友達や周りの考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」の問いに対する肯定回答割合が高い。それは、国語や道徳、学級活動など授業の中でも、話し合う活動を取り入れ、互いの意見のよさに目を向けたり自分の考えを伝えたりする活動を通して、児童が主体的に話し合い活動に取り組んでいたことによると思われる。今後も対話を取り入れた活動を授業の中に取り入れ、自分の考えを深められるようにしていきたい。また、全体の中でも自分の考えを発表し伝えることができるような支援を行う。

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」に対しての肯定回答割合は県平均を上回っていた。意欲はあるが、放課後や休日に、地域の活動に参加している児童の割合が低かったので、参加につなげられるように呼びかける。

○生活の様子についての質問では、寝る時刻、起きる時刻、朝食の生活習慣に関する質問の肯定回答割合が高い。各家庭での意識の高さが伺える。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」に肯定的に回答した児童の割合も高かった。学校生活に、安心し、満足しているようだ。保護者の協力や学校生活の充実が、学習に向かう原動力となっていると考えられる。今後も、保護者と連携を図りながら児童が、充実した学校生活を送れるように支援していく。

宇都宮市立豊郷中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「書く」「話す」活動を意図的に取り入れ、自分の考えを表現する力の向上	・根拠や理由を明らかにし、順序だてて端的に話したり書いたりする指導を行っている。 ・授業以外の日常活動や、家庭学習等でも、自分の考えを表現する活動の工夫を行っている。	「書くこと」「話すこと」どちらにおいても市の平均を上回っている。特に、伝えたいことを明確にしたり、目的や意図に応じて情報を関連付けて伝える力が身に付いていると考えられる。しかし、表現の工夫や、自分の考えを根拠に基づいて述べたり、情報を情報を関連付けて自分の考えをもつことには課題が見られる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自分の考えが伝わるような表現の工夫、自分の考えを根拠に基づいて述べたり、情報と情報を関連付けて自分の考えを表現することに課題が見られる。	基礎・基本を活用し、自分の考えを言語化し、相手により伝わりやすい表現を工夫して発信する活動の充実	・個の考えを表現する活動の時間を十分に確保する。（「じっくり」の活動を充実させる。） ・資料をもとに分かることを考察し、書いたり話したりする活動を学年の発達段階に応じて実施し、スモールステップでの向上に努める。 ・自分の考えを発信する活動を他教科でも取り入れるとともに、互いの考えを聞き、まとめる活動を充実させる。